社団医療法人 養生会　月刊発行新聞

かしま ほっとHOT ほっとhot 通信

5月号 Vol.340
令和3年（2021年）5月1日発行
■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代)　fax.0246-58-8088
ご意見・ご感想は…
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室（江坂 宛）まで
r-esaka@kashima.jp

ホームページ http://www.kashima.jp
かしま病院　検索

スマートフォンをご利用の方は、QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

1,2 巻頭特集
①『新任医師のご紹介』
②『令和3年度 入職式・新入職員合同研修 開催』
3 糖尿病のおはなし
『血糖自己測定器（SMBG）が新しく変わります』
かしま糖尿病サポートチーム
コラム ひんがら目（167）
『多様性の時代 同性婚をどう考えるか』
呼吸器科 部長　山根 喜男
4 ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
入院時アメニティセットのご紹介
かしま荘通信

社団医療法人養生会の入職式が、4月1日(木)に執り行われ、24名の新人が養生会の仲間に加わりました。

巻頭特集

❶ 新任医師のご紹介　総合診療科：藤井 慎之輔 医師

❷ 令和3年度 入職式・新入職員合同研修 開催

特集❶ 新任医師のご紹介

4月1日より、藤井慎之輔医師が当院の総合診療科にて1年間後期研修を行います。藤井医師より着任のご挨拶をいただきました。

藤井 慎之輔　総合診療科

初めまして、藤井慎之輔と申します。今年の3月に福島市の大原綜合病院で初期研修を終え、今年度より福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座に入局し、当院総合診療科で後期研修をさせていただいております。

私が家庭医を志したのは患者さんや家族、そして地域に寄り添うことのできる医師になりたいと思ったからです。昨今医療の細分化・専門分化が進むことで、特定の疾患を深く診ることができるようになりましたが、それに伴い患者さんを1人の人間として診ることのできる医師は少なくなっているように感じています。もちろん特定分野のスペシャリストも必要ですが、私は患者さんや地域に起こるどんな健康問題も専門領域内と言えるような医師になりたいと考えています。当院での研修を通じて、地域多機能病院ならではの継続的なケアについて、そして地域に根ざした医療を行えるように学ばせていただきたいと思います。

私は群馬県出身で大学時代から8年間福島市に住んでいましたが、いわき市に住むのは今回が初めてです。いわき市は福島市と違って温暖な気候で、冬は雪が少なく、とても過ごしやすい環境と伺っています。また海のない群馬県民としては海が間近にあるいわき市に住むことができ大変嬉しく思っていますので、研修と併行していわき市の自然や料理を楽しませていただきたいと考えています。

短い期間ではありますが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

特集②

令和3年度 入職式・新入職員合同研修 開催

今年度は、看護師9名、理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士2名、社会福祉士1名、管理栄養士2名、調理師1名、事務員6名の計24名が入職いたしました。

入職式

中山大理事長より、養生会の一員として地域社会に貢献し続けることを期待しておりますと激励のお言葉をいただきました。

新入職員合同研修

新型コロナ感染症対策の観点から、研修期間を2日間と短くし、2グループに分けて人数を分散して研修を行いました。

内容は、当院の概要や感染予防対策、医療安全、接遇、情報セキュリティの講義を行いました。

新入職員ご紹介！

新入職員の中から5名に　当院へ入職したきっかけや抱負をお聞きしました。

看護部 東2病棟 看護師 大内　彩加

私が看護師を目指した理由は、看護師として働く母の姿を幼い頃から見ていて「自分も看護師になって働きたい」と思ったのがきっかけです。さらに、自分が大きくなるにつれて一人の看護師として働く母の姿は、とてもかっこよく感じました。また、私は自分から積極的に誰かに話しかけたりすることが苦手で、時間がかかってしまうことがあります。看護師という職業を通し、そんな自分を少しずつ変えたいと思ったのも看護師を目指した理由の一つです。今は毎日、先輩の後をついていくのに精一杯な所もありますが、患者さんに対して自分は何ができるのかを考え、今の自分に出来る事を精一杯、頑張りたいと思います。

リハビリテーション部 作業療法科 作業療法士 古市　愛理

この度、作業療法士として回復期リハビリテーション病棟に配属されました。

私がかしま病院を選んだ理由は、発症早期から急性期・回復期・維持期といった途切れの無い幅広いリハビリテーションを提供している点や患者様の退院後の生活への不安に対する支援を行い、地域に密着した医療を提供しているという点に魅力を感じたからです。お一人おひとりの意見を尊重して患者様が主体となるリハビリテーションを提供できるセラピストを目指し、病前の役割や大切にしている作業・生きがいを私自身も大切にしながら患者様がより良い生活ができるように支援していきたいと思います。一日も早くお役に立てるよう努力しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

患者サポート室 医療社会福祉相談課 社会福祉士 坂本　健太朗

私が高校生の時、入院している祖母の相談に乗ってくれる職員を見ていて、何か人の役に立つ仕事に就きたいと考えるようになりました。大学のゼミ活動では地域の高齢者と関わることが多く、自分の力で困っている人を助けることができ、不安や悩みを抱えている人々を支援して地域活性化につなげることができる地域密着型の支援に魅力を感じました。生まれ育った地元で就職したいと考えていたとき、かしま病院を見つけ「地域医療と全人的医療の実践」、「面倒見の良い病院」という理念に惹かれ、志望しました。相談業務が中心の社会福祉士という職種で、私はまだ経験が浅く、年齢も若いので頼りなく感じることがあると思いますが、一生懸命頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

事務部 医事課 事務員 松本　咲輝

院内託児所や仕事と生活の調和など様々な取り組みを行っていることを知り、とても魅力を感じました。また、実際に見学をさせていただき、院内の雰囲気はとても暖かく忙しい中でも患者様一人一人としっかりと向き合っている姿を拝見して、私も当院で貢献していきたいと思いかしま病院を選びました。入社してからはまだまだ分からないこともありますが、優しく丁寧に指導してくださる先輩方、支えてくれる同期と共に頑張っていきたいと思います。多岐にわたる業務をこなしながら、かしま病院の医療事務員として笑顔を忘れず思いやりのある人になりたいです。

事務部 栄養課 管理栄養士 安達　華

私は、母親の入院をきっかけに管理栄養士を志しました。患者さんの体だけではなく、心も健康にすることができる食事を作りたいと思ったのです。

かしま病院は直営での給食提供を行っており、委託での給食提供と比較して食事を通じた患者さんとの距離が近いことが特徴的と感じました。また、毎週の病棟訪問を通して患者さんの声に直接耳を傾けています。医療の一環として食事を提供していると同時に、食べる楽しみや喜びも一緒に提供することができるという点に魅力を感じ、かしま病院で働きたいと思いました。これから、患者さんの体と心、両方の健康への責任を担っているという自覚を持って業務に努めたいと思っています。

糖尿病のおはなし　かしま糖尿病サポートチーム

血糖自己測定器（SMBG）が新しく変わります。

うすくコンパクト、画面が見やすい、音声ガイド付き

患者さんご自身が必要な時に、いつでも・どこでも血糖値を知ることができるのが血糖自己測定です。不安なときはもちろん、食事のとき、運動をしたとき、糖尿病の薬を服用したときなど、いろいろなタイミングで血糖測定することで血糖値のリズムを知ることができます。

測定結果は自己管理ノートに記録しましょう！そして、なぜそのような結果になったのかを考えることが大切です。

- 間食や食べ過ぎていませんか？
- 適度な運動はしていますか？
- インスリン注射や飲み薬を忘れていませんか？

血糖自己測定を上手に活用して、血糖コントロールに役立てましょう。

糖尿病サポートチーム
臨床検査技師　飯ヶ谷奈央子

ひんがら目（167）

多様性の時代　同性婚をどう考えるか

香港は大変なことになっています。民主化運動のリーダーの方々が中国共産党により迫害を受け、言論の自由が奪われています。

しかし、言論の自由は外国の問題だけではなく日本でも難しくなって来ています。言葉狩りがあり、また自分と異なる意見にはSNSなどで炎上されるおそれもあり、文章を書く場合に言い回しに気を遣わざるを得ません。コミュニケーション不足による思い込みなどで恨みを持たれては困るので原稿を書くにも筆が進みにくくなりました。そんな環境の中で、反論が出そうなことを承知で、あえて自論を述べてみたいと思います。

ダイバーシティは多様性のことですが、普段から横文字を使いたがる人たちは日本語に取り入れました。島倉千代子さんは、「人生いろいろ」を歌ってヒットしましたが、これも多様性のことです。

先進7カ国の中で同性婚が認められていないのは日本だけだそうです。結婚形態の多様性を求めて日本でも同性婚を認めさせようとする動きがあります。多様性に対して寛大である事は進歩的であるように見えますので、反対するのはためらわれますが、多くの方はどこかに違和感を覚えられるのではないでしょうか。

LGBTなどの存在を認める事は精神の世界ではさほど抵抗はないのですが、同性婚は法律の世界のことですので法的安定性が気になります。

日本国憲法は、両性間の婚姻の自由を謳っていますが、同性間については言及していません。憲法では同性婚は問題外だとして端から否定しているのとの見方があります。しかし他方では、同性婚を明確に否定していないのだから、憲法は同性婚を認めているとの主張もあります。

同性間の婚姻届を出された場合、役所の担当者は判断に迷います。理論武装をして届け出に来た人に不受理を申し付けるには、説得力のある理論で応じないと押し問答になります。多様性を認める立場では、同性婚もあり、となります。

異性間の婚姻の場合には重婚は認められていません。また、離婚後の再婚の場合には子供の認知などに関しまして生物学に由来する条件があります。婚姻とはそれだけ重大な出来事なのです。単に、好き嫌いで済ませられることではなく、社会的なハードルがあります。同性婚が安易に認められますと婚姻のハードルが低くなり、瞬時に婚姻、離婚が行われるようになりかねません。これに、遺産相続や民法上の権利や義務が振り回されますと法的安定性が脅かされます。

国家には原則があります。国際結婚などは、国家の原則からは外れますが、例外的に受容されています。しかし偽装結婚などで不法移民が横行しますと国家の秩序が保てなくなります。

同性婚が許されますと、三親等以内の婚姻も禁止する根拠がなくなります。重婚なども禁ずる理由が無くなり、複数の入り組んだ婚姻関係も禁ずる理由がなくなります。それでは家族制度が崩壊します。

全ての人が、自由で気ままに生きますと、権利が横行し義務がないがしろにされて、国家を維持することが困難になります。

同性婚を要求する人はこの問題をどう考えるのでしょうか？

（呼吸器科　部長　山根 喜男）

ようこそ家庭医療へ！

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～

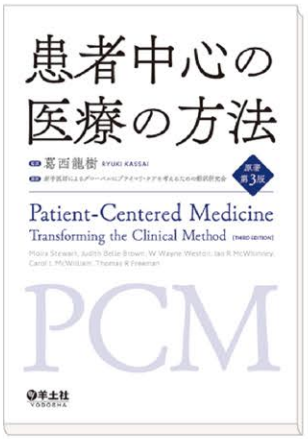
第135回

祝！バイブル完訳＆発行「患者中心の医療の方法」

診療部 石井 敦

「患者中心の医療」について書かれた専門書『Patient-Centered Medicine : Transforming the Clinical Method』第３版の日本語版が出版されました。著者は、家庭医療学を独立した学問分野として確立させたカナダ Western 大学の故 Ian R McWhinney 名誉教授と、この領域の世界的リーダーたちです。内容は、「患者中心の医療」について、単に理論やモデルを示すだけではなく、それをどのように診療、教育、政策、研究の現場で応用し、実践へ落とし込むか？その「方法」が豊富な研究エビデンスとともに示されていて、家庭医療・総合診療を志し、生涯かけて「患者中心の医療の方法」を極めようという医療人にとって、まさにバイブルと言える一冊です。

この日本語版を作る翻訳プロジェクトは、日本プライマリ･ケア連合学会の若手会員の有志、通称「翻訳研究会」のメンバーらが分担して熱心に翻訳し、オンライン会議で根気強く議論と推敲を重ね、福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座 葛西龍樹 主任教授の監訳により成し遂げられたそうです。実は、かしま病院で後期研修をおこない、家庭医療専門医として大活躍している豊田喜弘先生が、この「翻訳研究会」のメンバーの一人であり、これはとても誇らしいことです。彼らの努力がこの日本で大輪の花を咲かせ、プライマリ・ケアの発展という形で結実するように、私も本書を熟読して勉強しなおし、若手教育にも存分に活用し、「患者中心の医療の方法」を更に広く啓発していきたいと思います。



かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。

リハビリPOST 第122回

コロナ禍における回復期リハビリテーション病棟の対応

かしま病院回復期リハビリテーション病棟には、脳血管疾患や骨折、脊髄損傷などで身体的・精神的・社会的サポートが必要になった方が入院しています。当院では 365 日リハビリを行い、歩行や日常生活動作向上のための訓練を行っています。従来であれば、ご家族様が院内にて患者様と面会することができ、リハビリスタッフとも対面で介助指導を行うことが可能でした。しかし現在、新型コロナウイルス感染対策として、かしま病院では入院患者様への面会を禁止しています。ご家族様にとってどのくらいの回復をしているかが分からない状況で、リハビリの経過を説明することや、生活動作の指導を口頭のみでお伝えすることは大変難しい課題となっています。

そこで回復期リハビリテーション病棟に入院されている方には、一つの対策として退院時の指導を行っています。退院時の指導というのは、自宅へ退院する時にリハビリスタッフが同行させて頂き、ご本人様への動作指導やご家族様への介助指導を行います。その際には、リハビリスタッフが発熱や体調不良がないことを確認し、ご家族様への体調も確認させていただいたうえで行っております。また、入院中の状況報告として、リハビリの様子を動画撮影し、ご家族様に見ていただく対応をすることもあります。実際に目で見ていただくことで、退院後の在宅生活を想像することができます。

世間では、新しい生活様式を実践することが求められています。リハビリ部の対応としても、より良いものとなるように努力していきます。

作業療法士　鳥居 詩乃

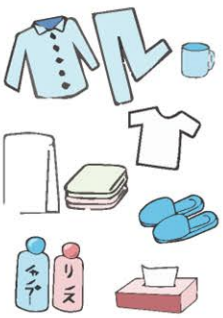
かしま荘通信

かしま商店 開催　4/16(金)

４月16日、かしま商店を開催致しました。お菓子・フルーツなどが並んでおり、入居者様は駄菓子類を見て楽しんで選んでおり入居者様から「昔食べたお菓子」を懐かしく眺めたり自然と笑顔がこぼれる様子が見られました。

入院時 アメニティセットのご紹介

入院の準備がグッと楽に…。



かしま病院では入院時に必要とされる『寝巻・タオル類・日用品等』のレンタルを専門業者により有料サービスにてご利用頂けます。入院準備の負担軽減や感染症防止への安心にもつながります。

様々なセットをご用意

必要に応じたセットやオプションが、お選びただけます。

●主なセット内容

・寝巻　・紙おむつ　・タオル類　・肌着など
・入院時に必要な日用品一式
（・歯磨き粉+ブラシ　・コップ　・入れ歯ケースなど）

詳細は、病院スタッフまでお尋ねください。